

学術情報の利用促進と保存プロジェクトチーム報告

国立大学図書館協会 学術情報委員会

学術情報の利用促進と保存プロジェクトチーム

平成 26 年 3 月

目 次

1. 活動概要（平成 23 年度～平成 25 年度）	2
2. シェアード・プリント（平成 25 年度報告）	
1) 諸外国におけるシェアード・プリントの動向	3
2) 日本でのシェアード・プリントを実施する際の留意点	7
3) シェアード・プリントに関する文献リスト（抄）	12

1. 活動概要（平成 23 年度～平成 25 年度）

1) 平成 23 年度

学術情報の利用促進と保存プロジェクトチームは、平成 23 年 10 月 28 日開催の平成 23 年度学術情報委員会で設置された。学術情報を発見し利用を促進するためのツールの導入、電子情報資源の保存を担保するための仕組み等について検討を行った。

構成メンバー：竹内比呂也（千葉大学附属図書館長）、関川雅彦（筑波大学附属図書館副館長）、加藤信哉（名古屋大学附属図書館事務部長）

2) 平成 24 年度

図書館所蔵資料のみならず、契約している電子情報資源や機関リポジトリのような自機関が電子化した資料を同時に検索できるウェブスケールディスカバリーサービス（WSDS）の現況調査、シェアード・プリント・リポジトリについて調査を行った。

構成メンバー：竹内比呂也（千葉大学附属図書館長）、関川雅彦（筑波大学附属図書館副館長）、加藤信哉（名古屋大学附属図書館事務部長）

3) 平成 25 年度

科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会が 2013 年 8 月に公表した「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」においても言及されているシェアード・プリントについて欧米の現状と日本で実施する際の留意点を報告書にとりまとめた。

なお、2014 年 2 月 20 日開催の国立大学図書館協会関東甲信越地区協会セミナー兼平成 25 年度職員研修会及び 2 月 28 日開催の KEIO 大学図書館国際フォーラム「大学図書館における冊子体コレクションの将来～日本版 Shared Print の可能性～」で調査結果の一部を報告した。

構成メンバー：竹内比呂也（千葉大学附属図書館長）、関川雅彦（東京大学附属図書館事務部長）、加藤信哉（筑波大学附属図書館副館長）

2. シェアード・プリント（平成 25 年度報告）¹⁾

シェアード・プリント（Shared Print）は「図書館が所蔵する冊子体（紙媒体）の図書や雑誌を、複数の図書館が共同で保存・管理すること。方法としては、各図書館がそれぞれ担当する資料を決め、それを各図書館で責任を持って保存する「分散型」と、各図書館が共同で使える書庫を用意し、対象となる資料をその書庫へ移送して保存する「集中型」がある。」と定義されている²⁾。

図書館蔵書を大学図書館が共同で保管・利用する仕組みは従来からあったが、Michalko によればシェアード・プリントは次のような背景から出現したものである³⁾。

- a) 情報資源の電子化が進んでいる
- b) 書架にある資料が利用されていない
- c) すでになんかの量の紙の資料が既存の保存書庫に分担収集され、紙の資料を独自に保存しなければならない図書館が非常に少なくなっている
- d) 大量デジタル化プロジェクトによって保存の選択肢が広がり、アクセス方法の選択肢も増大した
- e) 教員は[情報資源への]リモートアクセスをますます好むようになっている
- f) 学習・研究用にスペースをより有効に活用できる
- g) 図書館の価値は本やコレクションではなくサービス中心に確立してゆくべきである

日本では c) 及び d) について状況が異なるし、g) が大学図書館関係者の間で必ずしも受け入れられていないように思われる。

1) 諸外国におけるシェアード・プリントの動向

① 米国

米国のシェアード・プリントの現状について述べる前に米国の大学図書館における資料の保存・管理の流れについて表 1 に示す。

表 1 米国の大学図書館における資料の保存・管理の流れ

年 代	課 題	対 応
1980 年代	大学図書館スペースの狭隘化	・ 書庫の増設 ・ キャンパス内外での新しい書庫（高密度ストレージ）の建設 ・ 自動化書庫の導入
1990 年代	単独書庫の必要性についての大学内の疑問や大学予算の削減	複数機関が書庫スペースを共有する共同書庫（デポジトリ）の誕生
2000 年代	地域や国レベルでの紙の資料の確実な保存・継承の検討	複数機関の共同コレクション管理としてのシェアード・プリントへの動き

スペースの狭隘化という点では米国と日本の課題は変わらないが、複数機関が書庫スペースを共有する共同書庫や地域や国レベルでの紙の資料の確実な保存・継承の検討についてはほとんど行われていないといっている。

ここで共同書庫（Shared Storage）とシェアード・プリントの違いをスタンボーに基づき表 2 に整理しておく⁴⁾。

表 2：共同書庫とシェアード・プリントとの比較

事 項	共同書庫	シェアード・プリント
所蔵資料の保管場所	保存施設	図書館と保存施設
デポジットや保管の選択	・ 単独機関による決定 ・ 1 機関の目標を満たせばよい	・ グループによる決定 ・ 複数機関のニーズを満たす必要がある
デポジットや保管の方法	早いもの勝ち、重複なし	年間の保存サイクルによる
保存期間	無期限、除却なし	指定期間（例：10 年、25 年）
所有権	・ デポジットした機関 ・ 返還（リコール）が認められている	・ 合意書に言及なし ・ アーカイブの所有者に移管
参加機関の便益	デポジットのペースは個別に決定される	図書館スペースの再利用のペースが保障される
施設の運用上の便益	1 対 1 の関係	複数対複数の関係

シェアード・プリントと共同書庫の最も大きな違いは、所有権の移管と保存期間であろう。シェアード・プリントの場合は資料の所有権は保存施設に移管され、保存期間も無期限ではなく期間が指定されている（指定期間が終了した場合でも通常期間は延長される）。マルパスの指摘するようにシェアード・プリントはグループスケールでのコレクションの共同保管・利用のソリューションの一つである⁵⁾。

Center for Research Libraries が運営するシェアード・プリント・プロジェクトの台帳である Print Archives Preservation Registry には現在 30 プロジェクトが登録されている。その内訳は米国が 20、カナダが 2 となっている⁶⁾。これらの中から代表的なプロジェクトを表 3 に簡単に示す。また ASERL Cooperative Journal Retention Program と Five College Library Depository Program の 2 つについて表 4 及び表 5 にそれぞれ詳細を示す。

表 3 米国の代表的なシェアード・プリントのプロジェクト

名 称	タイプ	参加機関	対象資料	保存期間	所有者
ASERL Cooperative Journal Retention Program (ASERL)	分散型	25 機関	雑誌[2,347 タイトル]	一定期間	元の所有者
CIC Shared Print	集中型	15 大学	Elsevier, Springer 及び Wiley の雑誌	25 年間	元の所有者
Five College Library Depository Program	集中型	5 大学	図書・雑誌	永久	プログラム/コンソーシアムへの移管
Ohiolink Book Depository Program (OHI PR)	分散型	オハイオ州の5つの図書デポジトリ	図書・雑誌	未詳	元の所有者
Triangle Research Libraries Network Collaborative Print Retention (TRLN)	分散型	4 大学	図書・雑誌	永久	元の所有者
University of California Shared Print (UCL Shared Print)	集中型	10 校	図書・雑誌 [2,456 タイトル]	一定期間	プログラム/コンソーシアムへの移管
Western Regional Storage Trust (WEST)	分散型	米国西部の 18 州から 119 図書館	雑誌[10,973 タイトル]	未詳	元の所有者

表 3 を見る限り、米国のシェアード・プリントは多様であるといつてよい。タイプや保存期間について特定の傾向を見出すことができない。しかしながら、冊子体資料の共同保管・利用という観点から参加機関は近郊の地域となっている。また、電子ジャーナルとそのバックファイルの普及によって図書よりも雑誌の保管が進んでいるように思われる。

表 4 ASER (Association of Southeastern Research Libraries)

事 項	概 要
名 称	ASERL Collaborative Journal Retention Program Agreement
参加機関	25 大学
運用開始	2013 年
施設・設備	参加期間が自ら図書館内や書庫内で指定された雑誌を保存

移管対象資料	雑誌 8,000 タイトル, 25 万冊
所有権	各参加機関
経費	各参加機関
管理	オンラインカタログ：保存状態 ウェブサイトのリスト：対象巻号, 保存状態, 貸出条件, 施設等
期間	2035 年 12 月 31 日まで
効果	自館の重複資料を除却することが可能

表 5 FCLC (Five College Library Consortium)

事 項	概 要
名 称	Five College Library Depository
参加機関	マサチューセッツ大学アマースト校, アマースト大学, スミス大学, マウントホリヨーク大学, ハンプシャー大学
運用開始	1999 年
施設・設備	・ アマースト大学所有の書庫の借用 ・ 55 万冊収容の移動式書架
移管対象資料	・ [利用頻度の低い] 図書, 雑誌, 公文書 ・ 書庫内重複は認めない ・ 貴重書, 虫食いのある資料, 劣化の進んだ資料は移管できない
所有権	マサチューセッツ大学アマースト校から移管された資料を除き 5 大学図書館長会議 (Five College Librarians Council) が所有権を持つ
経費	5 大学分担
利用	来館利用/ILL (学術雑誌は文献複写のみ, 図書, 一般雑誌は貸借可)

表 4 の ASER のプロジェクトはどちらかといえば保存書庫であり, 表 5 の FCLC はシェアード・プリントの典型であろう。シェアード・プリントについてはまだ用語の混乱や概念の対立があり, 保存施設には「store」「repositories」「depositories」, 保管の考え方には「shared storage」「cooperative storage」保管資料には, 「low-use collection」

「research collection」「legacy print collection」のような用語が使われている⁸⁾。いずれにしてもシェアード・プリントの選択の鍵となるのは, 集中型か分散型か, 所有権の保持か譲渡か, リポジトリがダーク (アクセス不可能) かライト (アクセス可能) か, 対象資料が雑誌なのか図書なのかといった点であろう⁹⁾。

②その他

その他の国では, カナダで Shared Print Archive Network [雑誌], 英国で UKRR (UK Research Reserve) [雑誌], 香港で JURA (Joint University Research Archive) [図書+雑

誌], オーストラリアで CARM (CAVAL Archival and Research Materials Centre) [図書＋雑誌]等のプロジェクトが見られる¹⁰⁾。

2) 日本でのシェアード・プリントを実施する際の留意点

日本でのシェアード・プリントを実施する際の留意点を検討する前に、日本の大学図書館の収容スペースの現状に触れる。

平成 24 年度の「学術情報基盤実態調査結果報告」によれば大学図書館の蔵書冊数は 3 億 1718 万 6 千冊で、図書受入数は 644 万 6 千冊となっている。また、同じ平成 24 年度の実態調査では経費・設備面の課題として外国雑誌・電子ジャーナル購入の経費の確保（576 館，21.0%）に続き，資料収蔵スペース狭隘化の解消（529 館，19.3%）を上げている。資料収蔵スペースの狭隘化が深刻な問題としてとらえられている。平成 5 年度から平成 24 年度までの 20 年間にわたる大学図書館の蔵書の収容可能冊数と蔵書数の推移を図 1 に国立大学図書館の蔵書の収容可能冊数と蔵書数の推移を図 2 に示す。

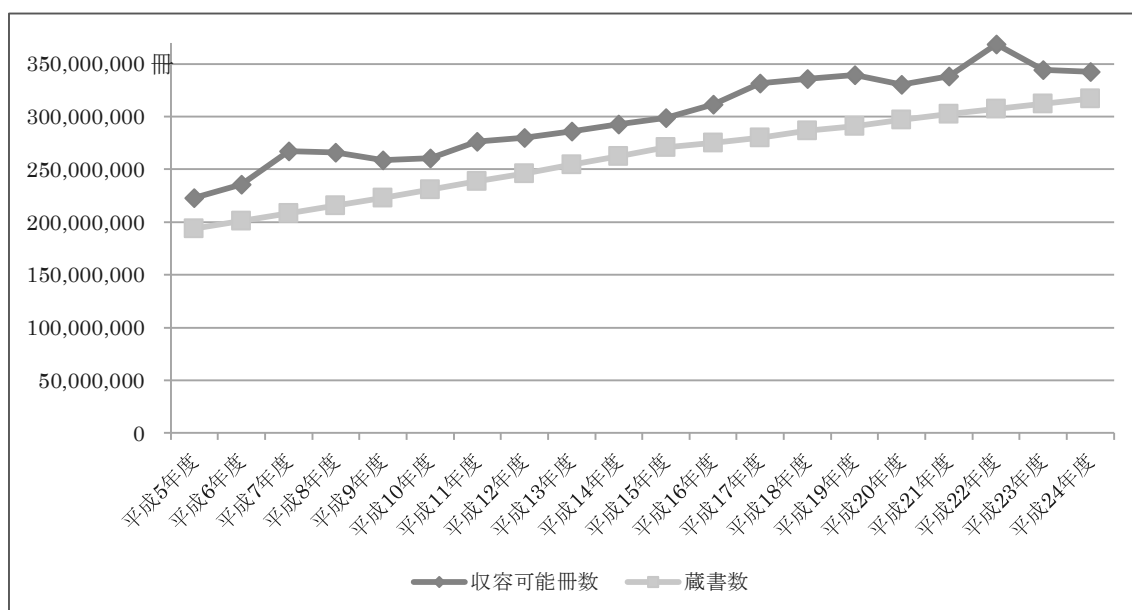


図 1 大学図書館の蔵書の収容可能冊数と蔵書数の推移：平成 5 年度～平成 24 年度

平成 24 年度の大学図書館全体の蔵書の収容率(蔵書数を蔵書の収容可能冊数で割った数)は 93%である。大学図書館で全面開架が普及していることを見ると，収容スペースが狭隘化していることがわかる。

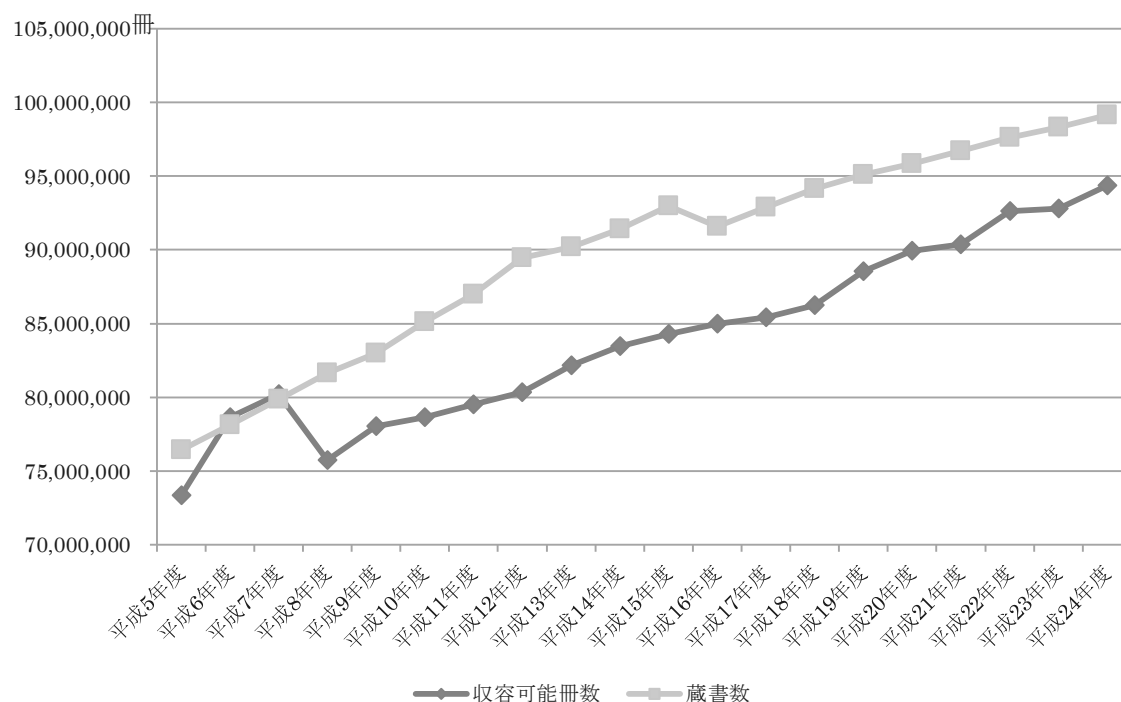


図2 国立大学図書館の蔵書の収容可能冊数と蔵書数の推移：平成5年度～平成24年度

平成24年度の国立大学図書館の収容率は105%で、ほぼ過去20年にわたって国立大学図書館は蔵書冊数が収容可能冊数を上回っている。いわば慢性的な書庫不足となっている。書架をはみ出した図書はおそらく、研究室等に長期貸出されており、これらは蔵書の30%に当たるといわれている。

国立大学図書館協議会（現国立大学図書館協会）では以前に2度ほど共同保存図書館に関する調査報告書を刊行しているが、実現に至っていない¹¹⁾。そのため、各大学では以下のような別の取り組みをせざるを得なかったといえよう。

①雑誌学内バックナンバーセンター

一定期間が過ぎた学内の雑誌を集約し、学内ILL（複写）サービスを行う機能
例）東京大学、京都大学、名古屋大学

②遠隔書庫

単独で遠隔地に保存書庫を設置

1983年 立教大学新座保存書庫

1994年 慶応義塾大学山中資料センター

③民間資料会社への資料委託

1994年 カルチャー・ジャパン（約260万冊委託）

④自動化書庫（ASRS: Automated Storage and Retrieval System）¹²⁾

2000 年 国際基督教大学

大学図書館では 27 館（国立大学 6 館 私立大学 21 館）が導入[2013 年 4 月？現在]

わが国にまとまった形でシェアード・プリントが紹介されたのは、2011 年の国公立大学図書館協力委員会シンポジウムである。OCLC Research のミハルコがシェアード・プリントの考え方、ジョンソンが CIC、ペインが WEST についてそれぞれ講演した。講演の要約（英語・日本語）は『大学図書館研究』第 95 号（2012 年 8 月）に掲載されている。

2013 年には「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」の 2. 学修環境の充実に資する学術情報基盤整備の在り方 b) 学習環境充実に関わる学術情報基盤整備の現状と課題 i) コンテンツ（適切なコンテンツ管理と空間の確保）の部分でシェアード・プリントについて言及された¹³⁾。該当部分は以下のとおりである。

（適切なコンテンツ管理と空間の確保）

○大学の状況に応じて、学術資料のより効果的・効率的な保存方法の導入を検討し、図書館における空間の有効活用を推進することが考えられる。

- ① 紙媒体資料について電子的保存・流通への対応と合わせて、各資料を紙媒体で維持・提供することの必要性についての検討を行う。
- ② 蔵書を集約化する自動書庫の導入や大学単独もしくは共同で遠隔地に保存書庫の設置について検討する。
- ③ 大学内においては中央図書館と部局図書館、大学外に関しては国立国会図書館を含めた複数の大学図書館の間で、紙媒体の重複保存を抑制するシェアード・プリントの導入について検討する。

上記の適切なコンテンツ管理と空間の確保の最初の部分では「図書館におけるコンテンツの整理・効果的な保存は、アクティブラーニングのための空間を確保する上でも、重要な課題である」と指摘し、「海外の大学図書館では、電子書籍の導入や学術情報のデジタル化の促進により情報資源の効率的な利活用への取り組みが進みつつあるが、我が国では、蔵書は紙媒体が中心であり、継続的に増加するため、それらを保存する書庫に対する投資が必要となるとともに、空間がさらに減少する」ことが見受けられると述べている。また、海外の大学図書館の事例としてスタンフォード大学、テキサス大学、国内では慶應義塾大学の理工学図書館等を紹介している¹⁴⁾。

さて、共同保存図書館構想が提案された 20 年前と現在とで環境面で変化した点は、大学財政の悪化、主に電子ジャーナルや機関リポジトリに代表される電子コンテンツの流通と大学図書館への浸透、教育・学習支援環境の整備、全面開架方式の行き詰まりと開架と

閉架の適正な棲み分けであろう。

1) で紹介した米国のシェアード・プリント・プロジェクトの現状を参考にしてシェアード・プリントの導入に当たっての留意事項を上げてみる。

①コレクションの共同保存・利用の考え方の理解

各図書館がシェアード・プリントを書架スペースの確保のための単なる重複資料の除却手段と考えてはいけないであろう。②とも共通するが、地域や国レベルでの紙の資料の確実な保存・継承の視点が不可欠である。

②資料の消失を防ぐ危機管理の原則に立脚した保存資料の選択

同じ図書が1部ありさえすればよい訳ではない。特定図書がいわゆる「絶滅種」とならない仕組みが必要である。ゆるやかな重複が実現されなければならない。

③費用負担

書庫の建設費のみならず運営費の負担も含まれる。負担方式が問題となろう。

④所有権の移管

これは非常に大きな問題である。蔵書の除却が大学図書館の評価や資産管理にかかわっているため、より大きな文脈で検討する必要もあろう。

⑤図書館コンソーシアムの新たな事業

図書館コンソーシアムといえば、現在は電子ジャーナルの購読コンソーシアムが中心である。シェアード・プリントを図書館コンソーシアムの新たな事業であると捉え、参加機関の信頼関係の構築、蔵書構成に関するデータの収集、共同コレクションについての利用者の態度の理解が求められる。すべての参加機関が最大限の便益を享受する協力範囲の最適化 (Right-scaling) がシェアード・プリント導入の鍵となろう¹⁵⁾。

なお、平成26年2月28日に開催された KEIO 大学図書館国際フォーラム「大学図書館における冊子体コレクションの将来～日本版 Shared Print の可能性～」のパネルディスカッションでフロアの参加者から横浜国立大学、お茶の水女子大学、千葉大学の連携によるシェアード・プリントや東海北陸地区大学図書館によるシェアード・プリントの動きの紹介があった。今後の展開に注目したい。

注

- 1) この部分は2014年2月20日開催の国立大学図書館協会関東甲信越地区協会セミナー兼平成25年度職員研修会及び2月28日開催の KEIO 大学図書館国際フォーラム「大学図書館における冊子体コレクションの将来～日本版 Shared Print の可能性～」の発表に基づいている。また、名古屋大学附属図書館の村西明日香氏から提供を受けた資料や同氏が執筆した『カレントアウェアネス』No.319 (2014.3.20) の掲載記事「北米における冊子体資料の共同管理の動向」を参照した。

- 2) 科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会. 学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）2013. p.11
- 3) Michalko, James. 市古みどり訳. 紙媒体資料の共同管理の緊急性. 大学図書館研究, 95, 2012, p.6.
- 4) Stambaugh, Emily. Shared print in action, frameworks and futures. Shared Print Forum. Keio University Media Center, 28 February 2014.
http://www.lib.keio.ac.jp/jp/sharedprint/20140228_emily.pdf (accessed 2014-03-09)
- 5) Malpas, Constance. Many Paths, One Moon: The Future of Academic Print Management in Japan. Keio University Shared Print Forum. 28 February 2014.
http://www.lib.keio.ac.jp/jp/sharedprint/20140228_Malpas.pdf (accessed 2014-03-09)
- 6) Print Archives Preservation Registry. <http://papr.crl.edu/> (accessed 2014-03-09)
- 7) 前掲 6)の Counts by program によれば雑誌の共同保管を行っている 16 プロジェクトに 87 機関が参加し, 延べ 75,381 タイトルが保管対象となっている。
- 8) Genoni, Paul. An International Review of the Development and Implementation of Shared Print Storage. Australian Academic & Research Libraries. vol.44, no.1, 2013, p.51
- 9) 前掲 8) p.63
- 10)各プロジェクトの関連記事については p.12 以下の **3) シェアード・プリントに関する文献リスト（抄）** を参照。また, 1980 年から 2013 年までのシェアード・プリントの国際的な文献レビューについては 8)を参照。
- 11) 国立大学図書館協議会保存図書館に関する調査研究班 「保存図書館に関する調査研究報告書」 1994 年 3 月
国立大学図書館協議会情報資源共用・保存特別委員会 「学術情報資源への安定した共同アクセスを実現するために一分担収集と資料保存施設」 2001 年 6 月
- 12) 黒澤公人の図書館業務の機械化 自動化書庫.
<http://subsite.icu.ac.jp/people/kimito/libmh04w.htm> (accessed 2014-03-09)
に基づいて集計した。
- 13) 科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会. 学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）. 2013. p.6
- 14) 前掲 13) p.5
- 15) 前掲 5)

3) シェアード・プリントに関する文献リスト (抄)

*書誌記述は SIST 02 (2007) によった。

*文献は見出しの下に著者 (タイトル)、出版年の順に配列した。

【シェアード・プリント】

○レポート

- Dempsey, Lorcan; Malpas, Constance; Lavoie, Brian. *Understanding the Collective Collection: Towards a System-wide Perspective on Library Print Collections*. Dublin, Ohio, OCLC Research, 2013. 220p.
<http://www.olcl.org/research/publications/librar/2013/2013-05.pdf>
- Lavoie, Brian; Malpas, Constance; Shipnegrover, JD.
Print Management at "Mega-scale": A Regional Perspectives on Print Book Collections in North America. Dublin, Ohio, OCLC Research, 2012. 62p.
<http://www.olcl.org/research/publications/librar/2012/2012-05.pdf>
- Malpas, Constance. *Cloud-sourcing Research Collections: Management Print in the Mass-digitized Library Environment*. Dublin, Ohio, OCLC Research, 2011. 70p.
<http://www.olcl.org/research/publications/librar/2011/2011-01.pdf>
- Malpas, Constance; Lavoie, Brian. *Right-scaling Stewardship: A Multi-scale Perspective on Cooperative Print Management*. Dublin, OCLC Research, 2014. 55p.
<http://oclc.org/content/dam/research/publications/library/2014/oclcresearch-cooperative-print-management-2014.pdf>

○雑誌特集号

- *Special issue. Kuopio: International Conference on Repository Libraries*. Library Management. vol.34, no.4/5, 2013.
- *Special Issue. Shared Print Repositories*. Fischer, Karen S., Editor. Collection Management. vol.37, no.3/4, 2012.
- *Special Issue on Shared Print Storage*. Australian Academic & Research Libraries. vol.44, no.2, 2013.

○雑誌記事

[文献レビュー]

- Genoni, Paul. *An International Review of the Development and Implementation of Shared Print Storage*. Australian Academic & Research Libraries. vol.44, no.1, 50-66, 2013.

[一般記事]

- Demas, Samuel; Miller, Mary E. *Rethinking Collection Management Plans: Shaping Collective Collections for the 21st Century*. *Collection Management*. vol.37, no.3/4, 168-187, 2012.
- Demas, Sam. *Curating Collective Collections -- Shared Print Collections Reaching Maturity*. *Against the Grain*. vol.24, no.6, 81-82, 2013.
- Clement, Susanne K. *From Collaborative Purchasing towards Collaborative Discarding: The Evolution of the Shared Print Repository*. *Collection Management*. vol.37, no.3/4, 153-167, 2012.
- Kieft, Robert H.; Payne, Lizanne. *Collective Collection, Collective Action*. *Collection Management*. vol.37, no.3/4, 137-152, 2012.
- Lugg, Rick. *Curating Collective Collections -- Library Logistics: Archiving & Servicing Shared Print Monographs*. *Against the Grain*. vol.24, no.3, 80-82, 2012.
- Lugg, Rick. *Data-driven Deselection for Monographs: A Rules-based Approach to Weeding, Storage, and Shared Print Decisions*. *Insights*. vol.25, no.2, 198-204, 2012.
- Michalko, James. 市古みどり訳. 紙媒体資料の共同管理の緊急性. *大学図書館研究*. 95, 6-10, 2012.
- Stanmbaugh, Emily. *Curating Collective Collections -- Reinventing Shared Print: A Dynamic Service Vision for Shared Print Monographs in a Digital World*. *Against the Grain*. vol.25, no.4, 68-70, 2013.

[ASERL]

- Bruxvoort, Diane; Burger, John E.; Sutton, Lynn Sorensen. *Like a Snowball Gathering Speed: Development of ASERL's Print Journal Retention Program*. *Collection Management*. vol.37, no.3/4, 223-236, 2012.

[CIC]

- Johnson, Brenda L. 市古みどり訳. CIC 共同保存書庫の展開とインディアナ大学の役割. *大学図書館研究*. 95, 16-20, 2012.
- Sandler, Mark. *Planning Assumptions and Implementing Strategies for Co-operative Print Storage Initiatives*. *Insights*. vol.25, no.3, 282-287, 2012.
- Sandler, Mark et al. *CIC Co-Investment to Protect Print Research Library Collections in the Midwestern United States*. *Collection Management*. vol.37, no.3/4, 237-259, 2012.

[CRL: Center for Research Libraries]

- Reilly Jr, Bernard F. *The Future of Cooperative Collections and Repositories: A Case Study of the Center for Research Libraries*. Library Management. vol.34, no.4/5, 342-351, 2013.

[Iowa State University, University of Iowa, University of Wisconsin-Madison]

- Gregory David J.; Lawson, Karen. *Small Scale: Using a Regional Pilot Project to Explore the Potential of Shared Print*. Collection Management. vol.37, no.3/4, 188-204, 2012.

[Tri-University Group of Libraries]

- Gilles, Scott; Stephenson, Carol. *Three Libraries, Three Weeding Projects: Collaborative Weeding Projects Within a Shared Print Repository*. Collection Management. vol.37, no.3/4, 205-222, 2012.

[Western Regional Storage Trust (WEST)]

- Payne, Lizanne. 菅原光訳. The Western Regional Storage Trust(WEST):大規模な学術雑誌（冊子体）の共同保管. 大学図書館研究. 95, 28-32, 2012.

○カナダ

- Bird, Gwen; Wong, Sabrina. *Consortial Shared Archiving: Perspectives from Canada*. Library Management. vol.35, no.1/2, 45-55, 2014.
- Bird, Gwen; Ashoughian, Gohar. *All Together Now: Planning for Shared Print Archiving at Canada's Western Universities*. Collection Management. vol.32, 260-270, 2012.

○英国

[UK Research Reserve (UKRR)]

- Brown, Chris. Building the UK Research Reserve: *Using Coordinated De-Duplication to Create a Collaborative Print Journal Collection*. The Serials Librarian. vol.63, no.1, 38-54, 2012.
- Boyle, Frances; Brown, Chris. *The UK Research Reserve (UKRR): Machinations, Mayhem and Magic*. Interlending & Document Supply. vol.38 no.3, 140-146, 2010.
- Yang, Daryl. *UK Research Reserve: a sustainable model from print to E?* Library Management. vol.34, no.4/5, 309-323, 2013.

○オーストラリア

- Anderson, Craig. *Avoiding Extinction: The Case for a National Research Collection*. Australian Academic & Research Libraries. vol.44, no.2, 90-101, 2013.
- Burton, Fiona; Kattau, Maureen. *Out of Sight but Lost to View: Macquarie University Library's Stored Print Collection*. Australian Academic & Research Libraries. vol.44, no.2, 102-113, 2013.
- Genoni, Paul. *A Distributed National Stored Collection: Testing the Possibilities*. Australian Academic & Research Libraries. vol.44, no.2, 75-89, 2013.

[CARM]

- Jilovsky, Cathie. *The CARM Centre: The Creation, Revelation and Evolution of a Print Repository*. Australian Academic & Research Libraries. vol.44, no.2, 113-124, 2013.
- Jilovsky, Cathie. *The CARM2 Print Repository: From Planning to Operations*. Library Management. vol.34, no.4/5, 281-289, 2013.
- Jilovsky, Cathie; Genoni, Paul. *Shared Collections to Shared Storage: the CARM1 and CARM2 Print Repositories*. Library Management. vol.35, no.1/2, 2-14, 2014.

○ニュージーランド

- Renwick, Helen. *Collaborative Storage of Print Serials in New Zealand*. Library Management. vol.34, no.4/5, 335-341, 2013.

○香港

[JULAC]

- Minihan, Brian. *Seeing the Trees through the Forest: Centralising Collection Management at Academic Libraries in Hong Kong*. Library Management. vol.35, no.1/2, 37-44, 2014.

[JURA]

- Sidorko, Peter; Lee, Linda. *JURA: A Collaborative Solution to Hong Kong Academic Libraries Storage Challenge*. Library Management. vol.35, no.1/2, 46-68, 2014.

○ヨーロッパ

- Saarti, Jarmo; Vattulainen, Pentti. *Management of and Access to Print Collections in National and Repository Libraries in Europe: Collection for Use or for Preservation*. Library Management. vol.34, no.4/5, 273-280, 2013.

○ウェブサイト

- Shared Print Archives and Repositories.
<http://sustainablecollections.com/shared-print-archives-and-repo/>(accessed 2014-03-09)
- Print Archives Preservation Registry.
<http://papr.crl.edu/> (accessed 2014-03-09)
- KEIO 大学図書館国際フォーラム「大学図書館における冊子体コレクションの将来～日本版 Shared Print の可能性～」 <http://www.lib.keio.ac.jp/jp/sharedprint/> (accessed 2014-03-09)

【関連分野】

- Britton, Scott; Renaud, John. *Print Retention Decision Making*. (SPEC Kit 337). Washington, DC, Association of Research Libraries, 2013. 209p.
ISBN: 978-1-59407-907-8
- Courant, P.N.; Nielsen, M. *On the Cost of Keeping a Book: The Idea of Order: Transforming Research Collections for 21st Century Scholarship*. Washington, D.C., Council on Library and Information Resources, 2010. 123p. CLIR pub147
ISBN: 978-1-932326-35-2
<http://www.clir.org/pubs/reports/pub147/pub147.pdf>
- Nitecki, Canuta A.; Kendrick, Curtis L.(eds.) *Library Off-site Shelving: Guide for High-Density Facilities*. Englewood, Colorado, Libraries Unlimited, 2001. 253p.
ISBN: 978-1-56308-885-8.